

年度	平成16～18年度
----	-----------

基本目的 8 市民が自己を高め、生きがいをもって暮らせる

行動目標 8-1 市民の芸術・文化活動が高まる

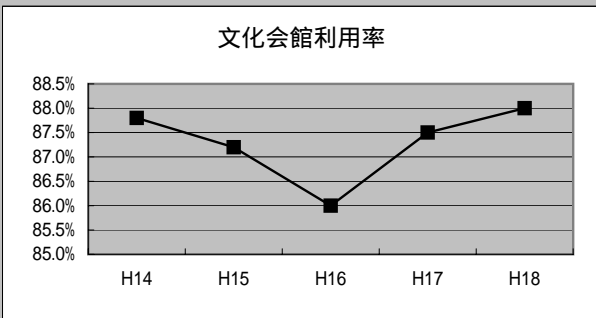
(所管課名 市民文化部市民文化課)

任務	市民が芸術・文化活動を行えるようにする
-----------	---------------------

任務の成果・活動指標の推移

文化会館利用率

H14実績	87.8%
H15実績	87.2%
H16実績	86.0%
H17実績	87.5%
H18目標	88.0%



指標の説明

市民が芸術・文化活動を行える指標として、文化会館の利用率という分かりやすい数値を取り上げた。今後、基金利用した補助事業に関わる数字なども指標となり得ると考えられる。

任務に対する評価

これまでの取組と成果、手段の妥当性

平成16～17年度

市民の自主的な文化活動の支援として、補助金を交付するとともに、優れた芸術・文化を鑑賞する機会を提供するために、文化振興財団自主事業に対し補助金を交付した。また、市民の芸術文化活動の発表の場として、四日市市美術展覧会を10月に開催するとともに、市民文化祭の開催を四日市市文化協会に委託した。さらに、平成17年3月に策定した文化振興ビジョンの推進に向けて、平成18年3月に文化振興実施計画を策定した。なお、平成17年度より、文化振興部門を市長部局に移管し、文化振興を総合行政で取り組める組織とした。文化会館については施設の老朽化対応のための設備更新工事を行うとともに、指定管理者制度を導入し、平成18年度から3年間の指定管理者を財団法人四日市市文化振興財団とした。また、平成17年4月に郷土の偉人丹羽文雄氏が逝去されたあと、ご遺族と調整しながら、博物館3階サルビアギャラリーに丹羽文雄記念室を整備すべく展示実施設計やレプリカの制作を進めた。

平成18年度

平成18年度は博物館の丹羽文雄記念室の整備を行い、郷土の偉人丹羽文雄氏を顕彰するとともに、中学生を含め市民に周知を図り、語り部養成などにも取り組む。なお、民間文化施設で行われる優れた文化事業に対しても助成を行う。文化会館については、耐震化工事・老朽化更新工事を行う。

これからの課題、施策等展開の方向性

狭い領域での文化行政という意識を払拭し全庁的に文化施策を推進していく体制をとっていく。また、文化の担い手は市民であるところから、市民が主役となった文化活動が展開しやすくなるように、既存事業について市民ニーズを十分把握した見直しを行っていく。